7教採
3枚のうち①

養護教諭　問題

【1】 次の文は、「学校保健安全法」(平成28年4月1日施行)の「第二十七条」及び「第二十九条の一部」である。文中の空欄（ a ）～（ j ）にあてはまる語句又は数字をそれぞれ書きなさい。

> 第二十七条　学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の（ a ）、児童生徒等に対する（ b ）を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の（ c ）その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。
> 第二十九条　学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の実情に応じて、（ d ）において当該学校の職員がとるべき措置の具体的内容及び（ e ）を定めた対処要領を作成するものとする。
> 3　学校においては、事故等により児童生徒等に（ f ）が生じた場合において、当該児童生徒等及び当該事故等により（ g ）その他の（ h ）の健康に対する影響を受けた児童生徒等その他の関係者の（ h ）の健康を回復させるため、これらの者に対して必要な（ i ）を行うものとする。この場合においては、第（ j ）条の規定を準用する。

【2】 「子供たちを児童虐待から守るために ー養護教諭のための児童虐待対応マニュアルー 」(平成26年3月20日公益財団法人日本学校保健会)には、健康診断における児童虐待の早期発見の視点について記載されている。次の1～3の計測、検診において、児童虐待の早期発見のために着目する視点を、それぞれ二つずつ書きなさい。

1　身体計測
2　内科検診
3　歯科検診

【3】 「学校環境衛生基準」(令和6年4月1日施行)及び「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践」(平成30年度改訂版文部科学省)について、次の問いに答えなさい。

1　下線部が正しい場合には○を、間違っている場合には正しい語句を書きなさい。

(1)教室及びそれに準ずる場所の照度の下限値は、300 lx (ルクス) とする。また、教室及び黒板の照度は、500 lx以上であることが望ましい。

(2)教室及び黒板のそれぞれの最大照度と最小照度の比は、20：1を超えないこと。また、5：1を超えないことが望ましい。

(3)教室等の環境における、一酸化炭素は、15ppm以下であること。

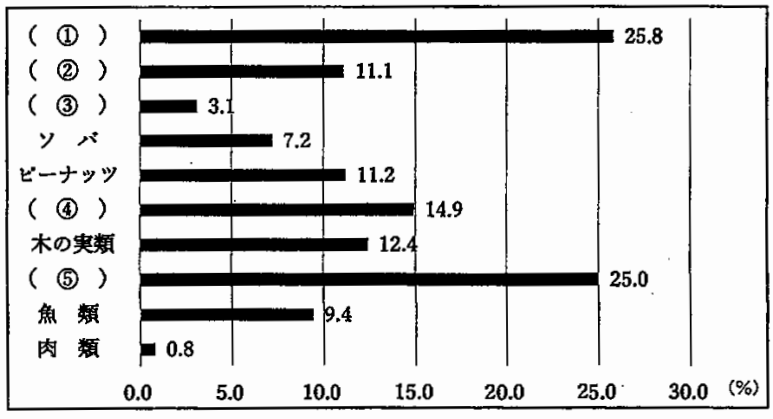
(4)教室内の等価騒音レベルは、窓を閉じているときはLAeq50 dB (デシベル) 以下、窓を開けているときはLAeq55 dB以下であることが望ましい。

(5)水道水を水源とする飲料水の水質のpH値は6.8以上8.6以下であること。

2　「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践」に記載されている「学校環境衛生活動」を三つ書きなさい。

【4】 次の図は、全国の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、義務教育学校、中等教育学校に在籍する児童生徒を対象とした令和4年度「アレルギー疾患に関する調査報告書」にある、食物アレルギーにおける原因食物 (アレルゲン) 別の児童生徒数割合を示したグラフの一部である。図中の空欄（ ① ）～（ ⑤ ）にあてはまる原因食物を、右下の語群からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

図



【語群】
ア：大豆
イ：甲殻類
ウ：鶏卵
エ：ごま
オ：果物類
カ：牛乳・乳製品
キ：やまいも
ク：小麦

7教採
3枚のうち②

養護教諭　問題

【5】 次の表は、「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（令和元年5月20日第5版日本スポーツ協会）に示された、「熱中症予防運動指針」の一部である。あとの問いに答えなさい。

表

(ア) 暑さ指数	熱中症予防運動指針	
（ ① ）℃以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に（ ② ）の場合は中止すべき。
28～（ ① ）℃	厳重警戒 （激しい運動は中止）	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や（ ③ ）など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり（ ④ ）・（ ⑤ ）を補給する。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。
25～28℃	警戒 （積極的に休憩）	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、（ ④ ）・（ ⑤ ）を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
21～25℃	注意 （積極的に（ ④ ）補給）	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に（ ④ ）・（ ⑤ ）を補給する。

1　表中の空欄（ ① ）～（ ⑤ ）にあてはまる最も適切な語句又は数字をそれぞれ書きなさい。

2　下線部（ ア ）をその英語の頭文字をとって何というか、アルファベット4字で書きなさい。

3　次の(1)～(10)は、「熱中症診療ガイドライン2015」（日本救急医学会）に記載された熱中症の症状である。(1)～(10)の症状の重症度について、Ⅰ度～Ⅲ度のいずれかでそれぞれ答えなさい。なお、Ⅰ度は軽症、Ⅱ度は中等症、Ⅲ度は重症である。

(1)筋肉の硬直（こむら返り）　(2)倦怠感
(3)嘔吐　(4)大量の発汗
(5)虚脱感　(6)頭痛
(7)生あくび　(8)意識がない
(9)集中力や判断力の低下　(10)めまい

【6】 学校における薬品管理について、次の問いに答えなさい。

1　次の文章は、「学校における薬品管理マニュアル（令和4年度改訂）」（公益財団法人日本学校保健会）の一部である。文章中の空欄（ ① ）～（ ⑩ ）にあてはまる最も適切な語句を、あとの語群の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

学校には、理科などの（ ① ）に用いる薬品、農薬、（ ② ）検査及び（ ③ ）などの衛生管理に用いる薬品など、様々な薬品が置かれています。

また、学校の保健室に一般用（ ④ ）を置いているところもありますが、学校は（ ⑤ ）ではなく、（ ④ ）を提供する場ではないことを基本とし、各学校の状況に応じて（ ④ ）の常備について検討する必要があります。（ ④ ）を児童生徒に提供することについては、教職員のみならず、児童生徒、（ ⑥ ）、（ ⑦ ）、（ ⑧ ）及び保護者等が（ ④ ）のリスクを理解し、その提供の在り方について（ ⑨ ）を持つことが極めて重要です。

さらに、学校においては、児童生徒が（ ⑩ ）等の指導に基づき、医療用（ ④ ）を持参して使用する場合があります。その中には、特に緊急に使用が必要になるものもあります。学校においてはその対応について、あらかじめ教職員間でも（ ⑨ ）を持つことが必要です。

【語群】ア：化粧品　イ：医薬品　ウ：学校歯科医　エ：学校薬剤師　オ：主治医
カ：養護教諭　キ：積極性　ク：医療機関　ケ：環境衛生　コ：学校医
サ：実験　シ：共通の認識　ス：家庭　セ：抗体　ソ：消毒

2　化学薬品や農薬を吸引、付着した場合の応急手当について、それぞれ説明しなさい。

(1)吸引した場合　(2)眼に入った場合

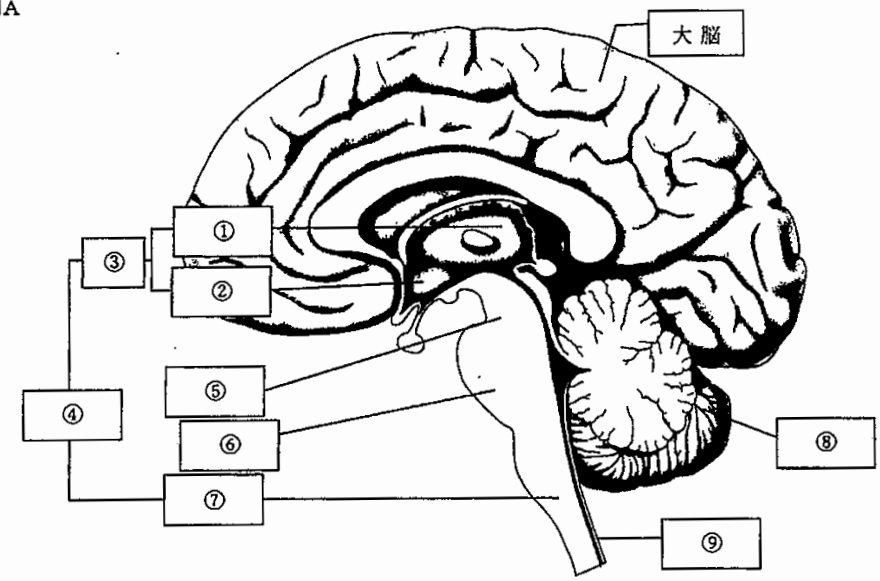
7教採
3枚のうち③

養護教諭　問題

【7】　次の問いに答えなさい。

1　次の図Aは脳の構造を模式的に示したものである。図中の、①～⑨の名称をそれぞれ漢字で書きなさい。

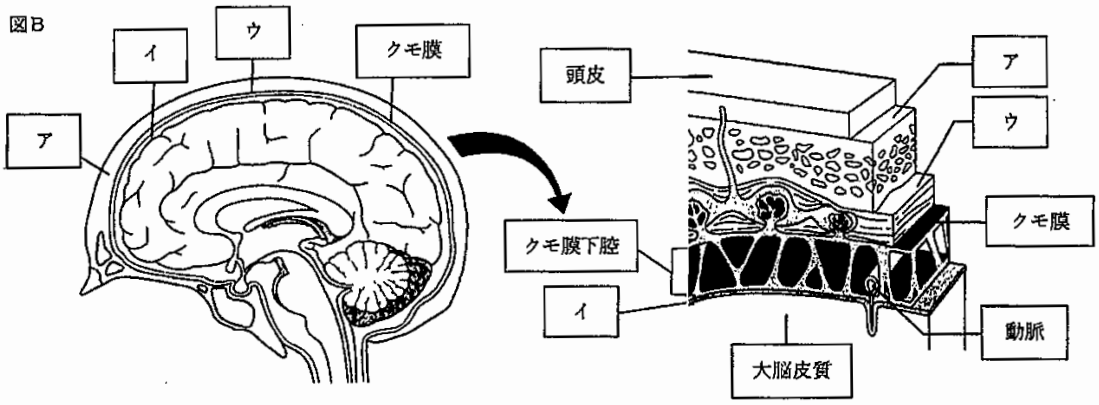
図A



（成美堂出版『からだのしくみ事典』による）

2　次の図Bは、脳を保護する構造の断面を表しており、ア～ウにはそれぞれ同じ名称が入る。図中のア～ウにあてはまる名称をそれぞれ書きなさい。

図B



（成美堂出版『からだのしくみ事典』による）

3　セカンドインパクトシンドロームとはどのような状態か、**血腫**という語句を用いて説明しなさい。

養護教諭　番号

7教採　※印の欄には何も記入しないこと。

養護教諭　正答例

【1】 10点

a	安全点検	b	通学	c	研修	d	危険等発生時	e	手順
f	危害	g	心理的外傷	h	心身	i	支援	j	十

※

【2】 12点

1	発育不良	不潔な皮膚	(順不同)
2	不自然な傷・あざ	衣服を脱ぐことや診察を怖がる	(順不同)
3	ひどいう歯	歯の萌出の遅れ	(順不同)

※

【3】 16点

1	(1)	○	(2)	10：1	(3)	6 ppm以下	
	(4)	○	(5)	5.8以上8.6以下			
2	定期検査		臨時検査		日常的な点検		(順不同)

※

【4】 5点

①	ウ	②	カ	③	ク	④	イ	⑤	オ

※

【5】 22点

1	①	31	②	子ども	③	持久走	④	水分	⑤	塩分
2	WBGT									

3	(1)	Ⅰ度	(2)	Ⅱ度	(3)	Ⅱ度	(4)	Ⅰ度	(5)	Ⅱ度	
	(6)	Ⅱ度	(7)	Ⅰ度	(8)	Ⅲ度	(9)	Ⅱ度	(10)	Ⅰ度	

※

【6】 18点

1	①	サ	②	ケ	③	ソ	④	イ	⑤	ク
	⑥	コ	⑦	ウ	⑧	エ	⑨	シ	⑩	オ

2	(1)	きれいな空気の場所に移動する。
	(2)	眼をこすらないよう注意して、すぐに流水で10分以上洗う。

※

【7】 17点

1	①	視床	②	視床下部	③	間脳	④	脳幹	⑤	中脳
	⑥	橋	⑦	延髄	⑧	小脳	⑨	脊髄		
2	ア	頭蓋骨	イ	軟膜	ウ	硬膜				

3	脳震盪になった後、回復しないうちに再度、脳震盪になるような強い衝撃が伝わると、脳が腫れやすく血管が破綻しやすい状態となり、硬膜下血腫が起こる状態。

※